

稲作情報 No.10

平成 28 年 10 月 6 日
南魚沼地域農業振興協議会
南魚沼農業普及指導センター

品質向上のため、稲わらの秋すき込みやもみがら・土づくり資材を活用した土づくりを行いましょ

1 稲わらの全量秋すき込み

- (1) すき込みは、稲わらを分解する土壤微生物の活動が活発な 10 月中旬までに行いましょう。
- (2) すき込み時の耕深は 5～10 cm の浅めとします。これにより稲わらの乾燥防止と酸素供給による分解が促進されます。
- (3) すき込みの際は土壌とよく混和し、地表水が溜まる場合は排水溝を作り、排除しましょう。
- (4) 稲わらの焼却は絶対に行わないでください。

2 もみがら・土づくり肥料の活用

南魚沼地域は、低地力ほ場やケイ酸質・鉄分が不足するほ場（地域全体の 50% 程度のほ場）が多く、高温登熟条件での栄養凋落やごま葉枯病の増加が懸念されます。稲体の後期栄養確保と活力維持のために、もみがらや堆肥および土づくり資材を積極的に活用しましょう。

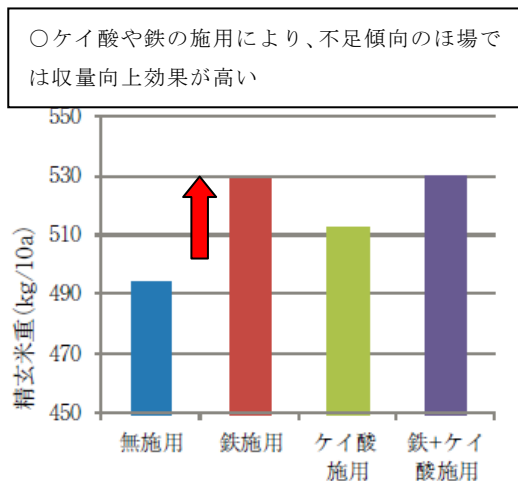


図1 老朽化水田において鉄およびケイ酸を施用した時の精玄米重
(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 平成13年度普及奨励事項)

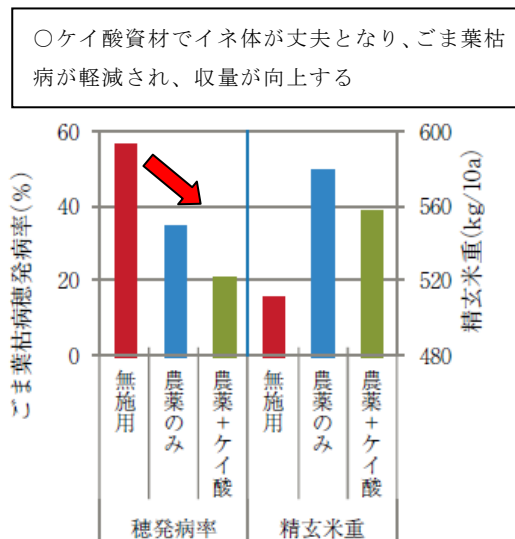


図2 イネごま葉枯病に対するケイ酸施用の効果
(新潟農総研平成22年度活用技術)

3 作期幅拡大による被害の軽減

近年気候変動が大きくなっており、気象災害は被害が広域かつ甚大となる傾向があります。リスク回避の観点からも移植時期の分散、直播の導入、早生等の多様な品種構成などによる作期幅の拡大を検討しましょう。

【問い合わせ先】

南魚沼地域振興局農林振興部普及課(作物担当)

電話 772-3337 FAX 772-2612